

“英知ピーティー学園”

—実験で楽しく学ぶ “出前環境・理科教室”

(株)日立プラントテクノロジーの経営理念は「地球の未来をみつめ、信頼される技術とサービスで、豊かな価値の創造と理想的な社会の発展に貢献する」である。同社は、「本業を通じて社会に貢献する」考え方のもと、さまざまなかたちの社会貢献活動に取り組んでいる。その1つ“英知ピーティー学園”について紹介したい。

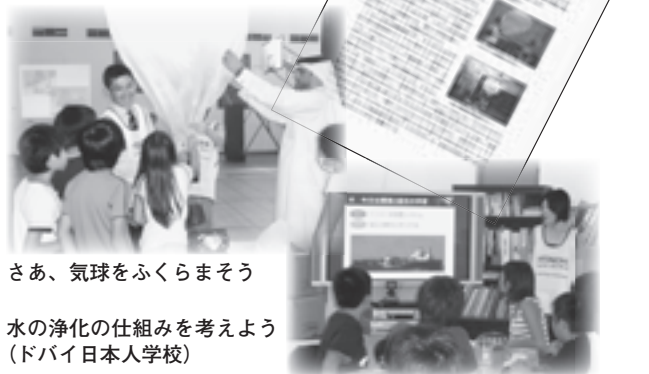
自社技術を応用し楽しい授業

英知ピーティー学園とは、「英知 + Parent + Teacher」の意味。英文社名 Hitachi Plant Technologies の頭文字とも符合させている。先生や父兄と連携し、未来を担う子どもたちの英知を育むために始めた。子どもたちが興味を持つ実験を主体にした“環境・理科教室”である。

同社では、以前から松戸のショールームに子どもたちを招き、小学校の「生活科」の授業の一環として、実験の体験活動を実施していた。日立プラント建設(株)、日立機電工業(株)、(株)日立インダストリイズと(株)日立製作所電機グループの一部が統合し、(株)日立プラントテクノロジーが発足したのは2006年。新会社として統一した活動をしようと各事業所でアイデアを出し合った。そして、松戸での内容をベースに小学校に出向いての理科教室をしてはどうか、旧会社が一緒に社会貢献活動をするのは、新会社の融合にも役立つのではないかということになった。

担当スタッフが、同社の本社がある豊島区の小学校の先生方と意見交換すると、「理科は専門外の先生が多く教科書中心となる場合も少なくない。実験主体の授業をぜひ実施してほしい」とい

学校だよりも掲載



さあ、気球をふくらまそう

水の浄化の仕組みを考えよう
(ドバイ日本人学校)

うことであった。そこで、同社の持つ技術に応用したテーマを提案し、2007年、最初の“英知ピーティー学園”が豊島区の小学校で開催された。

同社には、水処理や空調、電力関係のエネルギーや産業関連などの分野を担当する事業部がある。その技術に応用すれば、楽しみながら学べる理科教室ができる。4年生の理科には「ものの温まり方について」という単元がある。そこで、気球の模型を製作し、ドライヤーで中の空気を温めて気球を飛ばすという実験を中心に「出前環境・理科教室」を実施することにした。

教室が始まると、子どもたちは驚くほど熱心に実験に取り組んだ。ドライヤーで中の空気が温まった熱気球が空中に舞い上がった瞬間、一斉に大きな歓声が上がった。教室の終了後も興奮気味の子どもたちからは、「楽しい」「面白い」「理科が好きになった」などの声が上がった。先生方からも大好評の第1回目の出前型の理科教室であった。

ナショナルスタッフの手で運営

初めて海外で実施したのはUAE(アラブ首長国連邦)のアブダビとドバイ。2009年11月に現地

校と日本人学校の両校で“UAE校”を開催した。

当時は、UAEのドバイで世界一高いビル「ブルジュ・ハリファ」が建設中であり、同社の多くの空調設備担当社員が仕事をしていました。そこで、豊島区で実施したような活動をドバイでもできないかと考え現地と協議した。

UAEの学校でも理科の授業はあるが、日本人学校も現地校も実験をやることはほとんどない。両校からも、「子どもたちにぜひ体験させてやりたい」という要望があった。どうせ実施するなら、ドバイのナショナルスタッフが主体となることが望ましい。子どもたちも緊張せずに授業を受けられるし、現地スタッフのモチベーションも上がる。そこでナショナルスタッフに呼びかけると積極的に賛同し、ナショナルスタッフが中心となった英知ピーティー学園の実施にこぎつけることができた。

ドバイ日本人学校では、小学生と中学1年生を対象に、熱気球の実験に加えて、バラスト水の浄化技術を応用した、磁石で水をきれいにする実験も行った。参加した生徒から、「一番びっくりしたのは、じしゃくを入れたとたんごみが無くなったことです。会社は、環境はかい（破壊）ばかりしていると思っていました。でも、今日の実験をやってみて、会社は環境のこともきちんと考えているんだなあと思いました。（以下略。原文のまま）」という感謝のレターも寄せられ、学校だより『熱砂』にも掲載された。担当したスタッフからも、「地域に貢献した満足感とともに、日立プラントテクノロジーの社員としての誇りと喜びを実感した活



熱気球が空中へふわわり
(UAE現地校)



水はどうしてきれいになるんだろう
(UAE現地校)

動になった」との感想があった。

UAEでは、ナショナルスタッフにノウハウが蓄積され、その後も継続実施されている。2010年6月には、カイロ日本人学校でも“エジプト校”が開催された。

中国では、2010年3月に“上海校”を開催している。実施した徐匯区康寧科技実験小学は、理科教育に力を入れる上海でも上位ランクの小学校。「熱気球で学ぶ空気の浮力」と「水の循環」の2つの教室を行った。参加した小学3年生は、2つの実験を通して、環境保全の大切さと理科の面白さを学んだ。楽しげな子どもたちの歓声のなか盛況に終わり、学校関係者にも高く評価された。

同社は、子どもたちの英知の高まりが地球の明るい未来につながることを願い、今後も各地で継続実施していく計画である。本業を活かした活動の今後に期待したい。

(本誌編集部 間島輝利)

※取材協力・写真提供：
㈱日立プラントテクノロジー 総務・CSRグループ



汚れた水がきれいになるかな？



楽しい実験授業が終わってパチリ
(上海現地校)

◆日立プラントテクノロジーの社会貢献活動
<http://www.hitachi-pt.co.jp/csr/activity/contribution/index.html>